

ゼロカーボンシティ 風間浦

世界の平均気温は、産業革命以前の水準から1℃上昇し、このまま気温が上昇し続ければ地球環境に深刻な影響を与えていると言われています。我が国においても、もはや地球温暖化問題は、気候変動の域を超えて気候危機の状況に立ち至っているとして、2020年11月、第203回国会において「気候非常事態宣言」が決議されました。

気候変動の影響は、海水温の温暖化や国内外の異常気象という形で表れており、我が国においては、近年の大雨災害の深刻化が物語っています。特に2021年8月9日に発生した「むつ市・風間浦村豪雨災害」では、土砂災害による国道の通行止めや橋の崩落、家屋への土砂流入など大きな被害をもたらしたことは記憶に新しいことでもあります。

このような気候危機に対し、菅義偉前首相は2021年4月、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする目標を掲げ、2030年度の温室効果ガス削減目標について、従来の2013年度比26%減から46%減への引き上げを表明しました。この目標は、岸田文雄首相にも引き継がれ、持続可能な地域を次世代に残すために、必ず達成しなければならない課題となっているところです。

風間浦村では、漁業と観光によるむらづくりを推進するにおいて、風力や太陽光、さらには小水力などの再生可能エネルギーの導入による地産地消や森林整備・藻場造成などによる自然環境の保全に努め、持続可能な社会に向けた取り組みを進めていきます。

こうした取り組みには、住民の参画が不可欠であり、住民・事業者・行政が一丸となって資源循環のむらづくりを推進するとともに、脱炭素社会の実現に貢献するため、2050年までに村内の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言します。

令和5年3月7日

風間浦村長 富岡 宏



11 住み続けられるまちづくりを



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう

